

2

働く女性からのメッセージ

～女性の活躍推進協議会(※)メンバーが所属する企業で働く女性～

※女性の活躍推進協議会とは…官民が連携してポジティブ・アクションの普及を図っていくための仕組みとして創設された会議体。厚生労働省、企業経営者、有識者をメンバーに、平成13年から会議を開催しています。

吉原聖子さん

オムロン株式会社

グローバルリソースマネジメント本部
グローバル人財戦略部 グローバル人事グループ長

※執筆時
経営資源革新本部
人財センター 人事部
グローバル人事担当課長



- 人事部でグローバル人事を担当しています。世界各国で働くやる気があって優秀な人たちに、グローバルに活躍してもらうための仕組み作りや人材育成をしています。
- 大学卒業後すぐは家電メーカーで海外営業をしていました。学生の頃から海外に興味があり、日本発で広く海外を相手にできる仕事をしたいと思い、この仕事を選びました。中近東や南アメリカを含むさまざまな国への出張の機会もあり、やりがいのある仕事でした。
しかし、10年ほど経って、会社の中の仕組みや社員のモチベーションのあり方が気になりだして、社員一人一人が持てる能力を十分に活かし、やりがいを持って働ける職場を作ることに関心したいと思うようになりました。そこで人事部門への異動を希望し、それが実現し、海外営業の経験を活かしながらグローバル人事の仕事をするようになりました。その後、一度、転職をして現在の職場でも同じ仕事をしています。常にプロとしての誇りと自信、そして夢を持ちながら仕事をしたいと思っています、そのために以下の6つの要素を身につけたいと考えています。①高い志②熱い情熱③強い意志④柔らかい心⑤正しい判断力⑥謙虚さです。
- 仕事をしていてよかったと思うことは、色々ありますが、特に嬉しいのは、海外の人々も含めて個人では出会う機会がないはずの多くの素晴らしい人たちに、仕事を通じて出会えるということです。大変なのは、やはり生活とのバランスをとることですね。
仕事も生活も欲張ってあれもこれもやろうとすると、自分の身体や家族にしわ寄せがいくので、ほどほどにすることを学ばないといけないと感じています。
- 学生の皆さんへのメッセージとして、以下のことをお伝えしたいと思います。「就職」とは「就社」ではないので、「どんな会社に入りたいか」ではなく、「どんな仕事をやりたいか」をまずは考えるようにしてください。次に、「そのやりたい仕事ができそうな会社はどこだろう」と調べるという順番で、就職活動に臨んで欲しいと思います。また、採用選考は入学試験ではないので、会社は受験者の能力を単純に評価しているのではなく、会社が求める人材に合致するかを見ている。その人が持っている能力やスキル、そして、価値観がその会社に「合うか」どうかを見ているのです。ですから、採用選考に落ちても、落ち込むことはないのです。「能力が足りなかった」のではなく「合わなかった(=ミスマッチ)」のだと考えてください。「やりたい仕事ができそうな会社はどこだろう」と考えて会社を選ぶようにするとこのミスマッチも減り、いい結果につながりやすいと思います。お互いに頑張りましょうね。

深田玲子さん

中部電力株式会社

岐阜支店 営業部 法人営業グループ 主任



■ 当社は、「総合エネルギーサービス企業グループ」として、お客さまのご要望に応じたさまざまなエネルギーサービスを提供することにより、豊かな暮らしや産業の発展を支えるとともに、環境保全に貢献する企業を目指しています。

近年、IHレンジやエコキュートなどの家電製品の普及がめざましくご家庭で実際に使われている方にはその良さを実感していただいていることでしょうか。一方、産業用分野や業務用分野においては、省エネやコスト削減に加え、生産性の向上や災害に強いエネルギーシステムなどエネルギーに対するニーズは多様化・高度化しています。このため当社はエネルギーの最適な組み合わせや運用方法、熱源システムなど、電気・ガスそれぞれの強みを活かしたエネルギーソリューションサービスを提供することで、お客さまとともにエネルギーに関する課題の解決に向けて取り組んでいきます。

■ 私は子供の頃から漠然と「仕事は生涯続けるもの」と考え、働き続けやすい環境であるという事も電力会社を選択したひとつです。男女雇用機会均等法により技術系に女性採用があった当初で、入社時は変電所の保守管理をする技術部署で作業服を埃だらけにして汗水たらす日々。安全第一で電力の安定供給に務める大変さを痛感しました。

入社13年目に技術営業として営業部門に転属。営業として人と接する機会を大変興味深いと感じ、その後は自ら望み、現在は技術営業職として法人のお客さまへの設備に関するエネルギーソリューションサービスを中心に仕事をしています。

人は生きていくために仕事をして、対価をいただいて生活を築いていかなければなりません。また仕事は自己実現、表現のひとつでもあります。自分に合う仕事に出会えるかどうかはその人次第、活かすもそうでないのも自分次第です。必要な事であれば楽しんで仕事をしたいものです。

■ 多様化するお客さまのニーズに対し、双方にとってプラスとなり、お客さまに必要とされる提案ができることが理想です。「ありがとう」のひと言をいただける事がとても張り合いになります。

人はさまざまな考えを持っていて、判断基準は人それぞれです。自分なりの基準を持ちつつ、お客さまの立場で考え、お客さまの声をしっかり聞くことは当たり前のことなのですが、なかなか困難です。

日々の忙しさに当たり前のことを忘れない心を持ち続けることは大変です。仕事に終わりはありません。物事の優先順位を見極め、時間をうまく味方にする事、仕事だけでなく自分の生活をしっかり持つことがとても大切です。

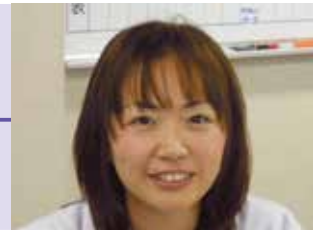
私自身は夫婦共働きで義理の両親と同居をしています。今の生活を支えてくれている両親や夫への感謝、「ありがとう」の気持ちが大切なのは家庭でも仕事でも同じなのだと感じています。

■ 生きていれば良い事も悪い事もあり、どのように感じるかはすべて自分の気持ち次第です。自分にとってチャンスなのかどうか直感力を鍛えることと、物事をプラスに感じる事ができるようにココロとカラダを元気しておくことが大切だと痛感しています。健全な生活習慣や自分なりのリフレッシュ法はいつでも必要です。

すべての人に平等な“時間”を味方につけ、いろいろな経験を通して、広い視野や視点、価値観をもつことで自分自身を成長させる努力を続ける事ができたらベストです。新陳代謝しなければ生きていけないのですから。

三浦静香さん

株式会社日本色材工業研究所
技術グループ



■ 当社は、自社ブランドを持たない化粧品のOEM会社です。その中で私は、主に生産システムの登録、包装工程の設計や社内外の調整を行っています。しかも、新製品に関わる業務を主としていますので、市販前の多くの顧客の製品の開発に関わる事ができ、楽しく仕事をしています。新製品の注文をいただいた時点で、全ての仕様が決定しているお客様は多くありません。早い段階であれば、作業効率アップのため変更していただけたところもあります。それに気付くことができ、実際の生産がスムーズに進んだ時にはとてもやりがいを感じます。生産現場には、10年以上化粧品を作っている方が沢山いますので、問題や要求に対応できず厳しい言葉をいただくことが多々ありますが、それを糧にして、今後も成長してゆきたいと思っています。

■ 私が化粧品を作る仕事を選択したのは、化粧品が女性にとっての必需品である事と、外見だけではなく内面をも変えうる力を持っているからです。高校生の頃、老人ホームのお年寄りが化粧によって笑顔を取り戻したという話を聞き、大変驚きました。漠然と、年を重ねたら化粧は不要だと思っていたからです。それ以来化粧品に関わる仕事がしたいという気持ちがあり、希望通り、化粧品の開発業務に従事できた事を幸運に思っています。

今後は、容器への充填や製造などの中身側に更に注力して仕事をしていきたいと思っています。そして将来的には、商品を企画する仕事がしたいと思っています。

現在、私には2人の子供がいます。産前・産後休暇、育児休業、就業時間の短縮など、会社の制度をフルに活用しています。周りの方たちのサポートもあり、家庭と仕事を両立させることができます。社内の規定変更も随時あり、働きやすい環境を作ってもらっていると感謝しています。また、やるべき仕事ができない理由を子供のせいにしたくはないので、時間内に効率的に動けるように常に意識しています。

■ 学生の皆さんには、自分の将来像を考える機会を作ってほしいと思います。5年、10年、20年後…こうなりたいという将来像がはっきりしてくると、今やるべき事が見えてくるのではないかと思います。就職活動中は、内定をもらうことに必死になってしまいがちですが、そればかりに固執する事無く、その先の人生を見据えて、今ある時間を有効に使ってほしいと思います。

